

愛郷  
無限

土屋館  
どや  
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街  
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035  
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2015年3月10日号 NO.512

写真提供：大田市

## Subject：訓書滋身【明治維新という過ち】

花火通り商店街では、KADOKAWA（角川書店グループ）の支援をいただき、【364ブックス】という「まちなか図書館」企画を、まずは有志11店舗でスタートしました。店主私蔵の本を店舗に置き、お客さまが自由に読んだり借りることが出来るサービス。貯金通帳のような形をした共通の図書カードも用意しました。本は知識と心の栄養であり、それらを貯めていくことに愉しみを持って欲しいから。先日、秋田さきがけ新聞さんでも記事紹介いただけました。いつも有り難い限りです。本をもっと読んでもらうこと、同時に来街者・来店者を増やすことも目的ですが、一番の目的は【店主】を知ってもらうこと。家の本棚を見ればその家主のことが良く分かると言われるように、店主がどんな本を読んでいるかを知れば、その想いや考え方が一目瞭然だからです。まずはヒトを知ってもらい、その上で店を知ってもらう。皆さんもぜひご利用ください。通帳一冊溜まればステキな景品も差し上げます。

そんな中で、ぜひ皆さんに読んでいただきたい本です。

### 【明治維新という過ち—日本を滅ぼした吉田松陰と長州テロリスト】

原田 伊織（著）

出版社：毎日ワンス；改訂増補版 発売日：2015/1/14

ISBN-10：490162282X

NHK大河ドラマが吉田松陰とその家族・仲間を取り上げ、明治維新再評価の機運が高い中でこの衝撃的な書名。実際に読んで見ると私達がこれまで教わってきた明治維新が如何に勝者の都合の良いことばかりであったのか白日の下にさらされます。果たしてこの本の内容が全て真実なのか、私のような凡夫には分かりません。ただ唯一明快なのは、歴史は勝者・強者の都合の良いように書き換えられ、塗り替えられるものだという事。これは世の東西を問わず、もはや常識であります。特に注目すべきは、この本には戊辰東北戦争に多くのページと史実が割かれていること。日本に於いて私たち東北人の持っていた（今でも持っている）気質、歴史、地域柄を知る事ができます。

世の中とは常に勝者に都合が良く変わっていくものだという前提の中で、我々凡夫はどう立ち向かえばよいのでしょうか？ それは、たとえお金と権力はなくとも、自身でモノゴトを判断するための考え方と知識の支柱＝座標軸を持ち、行動するしかないのだと思います。いつ如何なる時でも、世の流れを盲信せず、モノゴトを様々な面から捉え、考える、学び続けることが必要なのだろうということです。

この本を読んだ後、どう考えるか？ 私達が学校で学ばせられてきたことは何だったのか？ それらを正しく判断出来るだけの座標軸を自身で持っているのか？

それを痛切に考えさせられました。

日本以外の国では自国の歴史は近代から古代へと遡りながら教えられます。日本だけが古代から近代に向かって授業が進む。明治維新以降の近代を学ぶのはほんの僅かな時間であり、戦後などは微量でしかありません。私達のこの世の中を直接的に形作ってきた近代を、さらには近代の地元（秋田県の近代）を、私達はもっとしっかりと学び直さねばならないのでしょう。

が け

(第3種郵便物認可)

# 店内に図書コーナー



利用登録するともらえる通帳型冊子。借りた本を記していく

加えて、「クール・リージョン」と銘打った地域連携事業を本県と進める出版

は歴史や哲学に関する本、和装はきもの・小物加藤はデザインや工芸品の本を置く。美容室「オブジェ」には女性誌やインテリア雑誌がある。

## 店主こだわりの本

## 11店、無料貸し出し

1年365日から全国花火競技大会（大曲の花火）の1日を除いた日常の大曲の魅力を伝えようと、名称を「364ブックス」とした。店内に図書コーナーを設け、1度につき2冊まで貸し出す。返却は2週間以内。利用登録した人には借りた本を記す通帳型冊子を渡し、45冊借りると粗品がもらえる仕組み。

大手KADOKAWA（東京）が取り組みに賛同。地域の未来を担う子どもに役立ててもらおうと同社の小中学生向けレーベル「角川つばき文庫」60冊を提供し、店主の本と共に並べている。

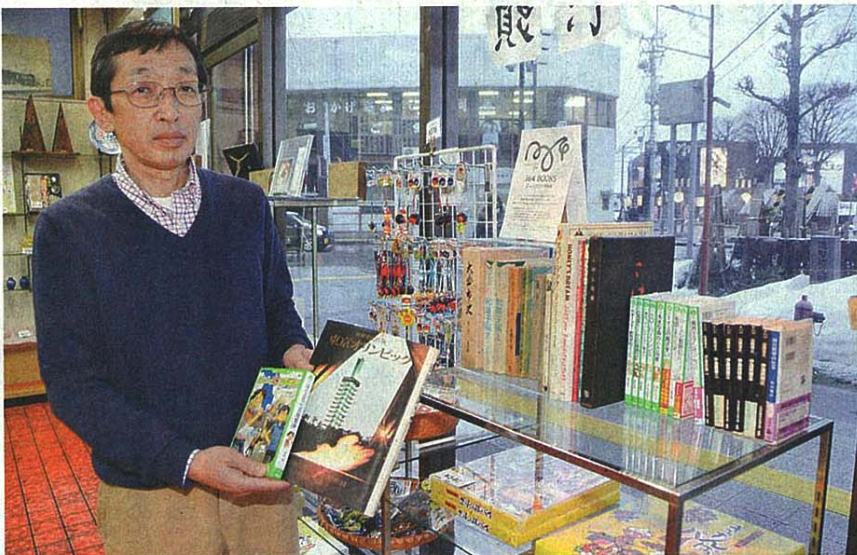
花火通り商店街の黒澤輝（会長47）は「各店主こだわりの本を置いているので、それぞれの人が分かると思う。行ったことがない店にも入りやすくなればいい」と語る。

（佐々木真弥）

## 大仙花火通り商店街など

11店で行う。

大仙市のJR大曲駅前の花火通り商店街を中心とした店舗で、店主所有の本を無料で貸し出す取り組み「364（さんろくよん）ブックス」が始まった。商店に図書館機能を持たせることで、店に愛着を持ってもらう狙いだ。全



豊月の「364ブックス」コーナー